

第1章 本県社会の変ぼうと教育

本県教育の課題を考察するにあたって、教育の基盤である本県社会の将来を展望する必要がある。

とくに、わが国の工業化の進行と県勢振興計画の実施とによって、本県の社会はその基盤においても、また実態についても、歴史的な変ぼう期にある。事実としての本県の推移との対比において予想される本県社会の将来を展望し、発展する本県社会が教育になにを要請するかをあきらかにしたい。

第1節 県勢振興計画の推進

本県は、関東経済圏に隣接し、東北の関門としての位置をしめ、面積は(13,780km²)、全国第2位の広さを有している。県内は、阿武隈高原と奥羽山脈によって、浜通り、中通り、会津の三地域にわけられ、それぞれ気候、地勢など自然景観は様相を異にし、産業、社会、文化も特色を持っている。

会津は、奥羽山脈によって中通り、栃木県と境し、越後山脈によって群馬、新潟に接し、飯豊山地によって山形県と隣接し、会津盆地とこれを包む山地とから構成されている。気象的には裏日本型に属し、冬季は豪雪地域になっている。この自然的条件から豊かな水資源を有する只見川水系は猪苗代湖とともに、わが国第一位の電源地帯となっている。豊かな水資源は会津盆地の農業用水として利用され、本県最大の穀倉をつくっている。広大な山地は、豊富な森林資源と未開発鉱業資源を蔵している。また、地理的条件からへき地が多く、経済格差も大きい。中通りと境している奥羽山脈は、那須火山帯に属し、この活動によって猪苗代湖、檜原湖をはじめ尾瀬沼などの湖沼、温泉、景観にとむ山岳、溪谷が多く、只見水系の電発地域、古い文化財などの観光資源にも恵まれている。

中通り、阿武隈川水系の流域に広がり、南は関東経済圏につらなり、奥羽山脈と阿武隈山地とによってはさまれ、南北に伸び、北は宮城、山形に接している。この縦谷は、北に福島盆地、中央部から南部にかけての郡山盆地を形成し、他は丘陵性の地域となっている。中通りは、関東経済圏と東北とをつなぐ交通動脈となっている。中通りは、阿武隈水系と猪苗代湖の水をひく安積疎水、羽鳥ダムの完成などによって豊富な水資源を有し、農業用水、工業用水として利用されて、郡山盆地、福島盆地の農業の発達を促し、内陸工業地を形成している。丘陵性の阿武隈山地は、林産資源も豊かであり、奥羽、阿武隈両山地の周辺部は、古くから養蚕、たばこ、こんにやくなどの特産物の適地であったが、原野の広がり、酪農地域としての発展性、果樹地帯としての適地となっており、多彩な発展が期待される。また阿武隈山地の石灰岩など豊かな地下資源もある。観光資源もまた多い。